

令和5年度 学校に関するアンケート【保護者】 結果と分析

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和5年12月1日～12月15日
- (2) 実施方法 Google フォーム用いて、アンケート調査(希望者は紙媒体でアンケートを配布)
15項目(1項目削減、1項目の文言の変更)
- (3) 回答項目 「A よくあてはまる、B あてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない」の5項目
- (4) 回答率

	回答率
小学部	53.4%
中学部	58.0%
高等部	42.9%
合計	51.3%

(4) 分析方法

ABの回答を肯定的な意見、CDを否定的な意見として分析

2. 昨年度との変更点

実施方法

昨年度は一斉メール配信システム「eメッセージ」のアンケートシステムを利用していた。今年度は、google フォームのリンクを保護者に「eメッセージ」で配信した。

項目

- ・項目を精選し、「学校給食の食材や献立・給食だより・給食のブログは、配慮・工夫されている」を削除
- ・「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」→「授業参観や、学校行事で学校の様子を知ることができる。」に変更

3. 結果と分析

- ・回収率は、昨年度(82%)より、約31%減。
- ・肯定的評価の全体平均は昨年度(79%)より2%減

〈肯定的評価 90%以上の項目について〉

「14. 授業参観や、学校行事で学校の様子を知ることができる。(94.6%)」

「6. 運動会、学習発表会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている。(91%)」

「11. 学校は、ホームページや緊急連絡システム(メール配信サービス)を通して、情報をわかりやすく発信している。(90.4%)」

上記3項目については、90%以上の肯定的評価となっています。

参観や行事など、学校での子どもたちの様子を見てもらう機会があることで、学校での様子を知ってもらうことができていることがうかがえます。運動会、学習発表会などの学校行事についても、保護者の方にみてもらう機会があり、子どもたちが参加しやすい工夫などを感じてもらっています。また、自由記述では、「色々な授業をもっとみてみたい」「いろんな教科の子ども様子を知られる機会を増やしてほしい」などの意見もいただきました。今後も、参観時の教科の設定の工夫や、個人懇談時に写真や動画で学校での様子をお伝えするなど、保護者の方に学校の様々な場面での子どもたちの様子を知ってもらえるよう、考えていきたいと思えます。

学校からの連絡については、プリント配布を削減し、eメッセージ(メール配信サービス)を活用しています。紙の削減にもつながり、保護者の方にとっても、個人の端末でいつでも情報を確認、検索することができ、情報へのアクセスがしやすくなっていると考えられます。今後もICTを活用しながら、学校での様子や情報を、わかりやすくお伝えしていければと思います。

〈肯定的評価 70%以下の項目について〉

「9. 学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて、適切な指導や助言を行っている。(63.5%)」

「10. 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(53.4%)」

「12. 学校は、地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」

「13. 学校は1人1台端末を効果的に活用している。(42.7%)」

上記4項目については、肯定的評価が70%以下となっています。

「将来の進路や職業などについて、実態に応じた適切な指導助言」について

高等部の保護者からは71%の肯定的評価の一方、否定的評価は20%となっています。卒業後の進路について具体的に考えていく段階で、将来の進路について学校からの指導助言が不十分であると感じておられる保護者が多くいらっしゃることをしっかりと受け止めたいと考えています。

小学部、中学部については、「わからない」の回答が、小:24%、中:32%となっています。中学部、小学部段階から、卒業後の進路を見据えたキャリア教育を進めていくことが、今後の課題となっています。取り組みの内容

についても、保護者の方にわかりやすいよう、発信していきたいと考えています。

「いじめへの対応」について

肯定的評価が53%と低くなっていますが、一方、「わからない」と回答した割合が43.8%と高くなっています。いじめ事案が実際に起こっていない場合、学校がいじめに対してどのような対応をしてくれるのかがわからないという面もあるのかもしれませんが。学校ホームページで本校の「学校いじめ防止基本方針」の周知や、「いじめに関するアンケート」の実施、「いじめ対策委員会の設置」など、学校組織として子どもたちが安心して学校に通えるよう、いじめへの対応を行っています。保護者の方に安心していただけるよう、今後も情報を発信していければと思います。

「地域とのつながりや交流の機会の設定」

肯定的評価が58%と低くなっており、昨年度よりも11%減となっています。「わからない」と回答した割合は29.2%と高くなっています。今年度は、居住地校交流、地域の学校との交流学习、寝屋川公園の清掃活動等の取り組みを実施しました。今年度の交流学习の取り組みの反省をもとに、次年度にいかしていきたいと考えています。また、保護者の方に取り組みを知ってもらえるよう、校長室だより等で発信をしていきたいと考えています。

「1人1台端末の活用」

肯定的評価が43%と低くなっていますが、昨年度と比較して、肯定的評価は8%増となっています。一方、「わからない」と回答した割合が48.9%と高くなっています。少しずつ保護者の方にタブレット端末活用の取り組みについて理解をしていただけていると感じます。本年度より、小学部5年生以上の児童生徒については、個人とタブレット端末を紐づけ、個別に合わせて端末を最適化することに取り組んでいます。児童生徒全員にgoogleアカウントを作成し、個別の課題に合わせて学習プリントを各端末に送信したり、フォーム機能を使い、授業の振り返りを即時に集約して共有したりするなど、授業における活用が広がっています。長期休み中に、休みの期間に経験したことなどをgoogle classroomに投稿する取り組みについても今年で2年目となります。Web上での児童生徒間の交流や、休み明けに投稿をみんなでみながら振り返る活動など、年々取り組みが広がっています。

〈「PTA 活動」について〉

「学校では、PTA 活動が活発に行われている。」の項目について、肯定的評価が昨年度(77%)より7%増の84%となっています。コロナ禍があけて、秋祭りや、講演会、バザーなど保護者の学校活動への参加の機会も増えています。PTA主催の秋祭りでは、保護者の方に加え、中学部、高等部の生徒も店番の手伝いをし、保護者と児童生徒、教員がともに時間を過ごす楽しい機会となりました。自由記述の中に、「先生方について知りたい」「先生と子どもについて話す機会がもっとあるとよい」「担任以外の先生との交流機会があるとよい」など、教員との交流の機会を望む声や、「同じ悩みを抱える保護者同士の交流」と、保護者同士の交流を望む声もありました。仕事をされている保護者の負担や、教員の業務負担とのバランスにも配慮をしながら、教員と保護者と協力して、子どもたちの教育を行っていただける学校を今後もめざしていきたいと考えています。